

1. 略歴

1980.04	東京大学教養学部理科 I 類、入学
1982.04	同学部教養学科第一文化人類学学科、進学
1984.03	同学科、卒業
1984.04	東京大学大学院社会学研究科修士課程文化人類学専攻、入学
1986.03	同修士課程、修了
1986.04	同研究科文化人類学専攻博士課程、進学
1988.04	社会学研究科より総合文化研究科へ移管
1990.08	東京大学大学院総合文化研究科博士課程文化人類学専攻、中途退学
1995.11	東京大学大学院総合文化研究科、博士号（学術）取得
1994.04 - 1997.03	東京大学教養学部専任講師
1996.04	大学院総合文化研究科超域文化科学専攻専任講師に配置換
1997.04 - 2004.09	東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻助教授
2004.10 -	東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻助教授
2005.04 - 2009.03	国立民族学博物館文化動態研究部門客員研究員
2009.04 -	東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻准教授

2. 主な研究活動

多様な状況における文書・読み書き、その人間・社会との関係の研究

a 専門分野

文書文化論

主に発展途上国を念頭に置きつつ、広く文書・読み書きと人間・社会の関係について研究している。また、調査研究方法の検討、改善にも強い関心を持っている。様々なフィールド調査で得られるデータや知見を、言語能力、数的能力、道具使用等に関する認知科学や、文書をはじめとする認知的人工物（cognitive artifacts）の変化に関する歴史学的研究と有機的に接合することを目指して、隣接諸分野の研究者との共同研究にも積極的に取り組んでいる。

b 研究課題

c 主要業績

(1) 論文

Akira Saito & Yusuke Nakamura (編著), *Les outils de la pensée: Etude historique et comparative des « textes »*, 2010.3

Akira Saito & Yusuke Nakamura, « Introduction : Outils de la pensée, outils de la vie », *Les outils de la pensée: Etude historique et comparative des « textes »*, 2010.3

中村雄祐、「書評への応答（書評 中村雄祐『生きるための読み書き — 発展途上国のリテラシー問題』（みすず書房、2009年））」、『社会言語学』、10、pp.203-206、2010.10

永崎研宣、中村雄祐、後藤真、「人文学におけるデジタル化に関するオープンなメタ議論の意義 — じんもんこん / Humanities Computing/Digital Humanities の将来に向けて」、『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集「じんもんこん 2010」』、pp. 1-6、2010.12

(2) 研究報告書

Hiroko Kazama, Yusuke Nakamura, Ken Shibushita, "Sobre el estado actual de los documentos para la comunicación pública en las áreas rurales en Guatemala — Memorandum de la visita a dos municipalidades", 2010.6

村岡ゆかり、中村雄祐、「絵図作成に使われた色料 — 調査方法・データのまとめ方・所見」、東京大学史料編纂所研究成果報告 2011-2 『「地図史科学の構築」の新展開』、第二部 pp.12-19、2012.3

(3) 予稿・会議録

国内会議、中村雄祐、「永崎・田畑両氏講演へのコメント」、南山大学社会倫理研究所「歴史・記憶・情報」研究プロジェクト デジタル技術がみせる人文学の未来 — Digital Humanities の現在 —、南山大学社会倫理研究所、2011.1.29

『人間・社会・未来 — 相繋がり生きる基盤を求めて』、pp.256-261、2011.3

(4) マスコミ

「生きるための読み書き」、『視点論点』、日本放送協会、2010.7.29

(5) 受賞

国内、中村雄祐、国際開発学会 2010 年度学会賞（奨励賞）、国際開発学会、2010.12.4

(6) 共同研究・受託研究

共同研究、中村雄祐、南山大学社会倫理研究所、「ガバナンスと環境倫理」、2011～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

セミナー、南山大学人類学博物館、「文書：その仕組みと使われ方の歴史」、2010.6

セミナー、南山大学 社会倫理研究所、「デジタル技術がみせる人文学の未来 — Digital Humanities の現在」コメント、2011.1

その他、東京大学史料編纂所 科研費プロジェクト「『地図史料学の構築』の新展開」（研究代表者：杉本史子）、「国絵図作成の社会的条件 — 復元研究と歴史研究の関係」、2011.7

その他、岡山デジタルミュージアム、「国絵図復活」、2011.10

その他、凸版印刷株式会社デジタル文化財ラボ、「心の道具と情報のデザイン — E.Tufte の研究を中心に」、2011.11